

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 1 月 5 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491100289		
法人名	株式会社 アーバン・ケア		
事業所名	グループホーム「なでしこ」		
所在地	尾道市吉和町5 1 2 2 番地 1 (電話) 0 8 4 8 - 2 5 - 2 7 7 2		
自己評価作成日	平成26年12月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3491100289-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3491100289-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年12月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

開所して3年目、おおきな節目を迎える事ができました。入居者さんのうち開所時からの顔ぶれは定員の半数である8名になりましたが、その反面新たな出会いもありました。またその間も職員の退職はほとんどなく、更に定期的に2つのユニットを勤務交代しているので、常に馴染の職員がすべての入居者さんと接する事ができています。また、今夏より入居者さんにキメの細かい視線を向ける事ができるよう、それぞれのユニットに現場主任を配置してケアの充実を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

尾道バイパス吉和インター傍にある平屋建て、開設3年目の施設である。事業所理念「家庭的な環境の中で、地域との交流を通し生き甲斐を持って生活できる支援」を掲げ、開設当初より町内会に加入し、今では町内会行事の準備を職員が応援したり、事業所主催のイベント及び火災訓練などに町内会の方々に参加して頂いたり、地域との協力体制が出来ている。又、近隣の他法人の事業所との連携で緊急災害の連絡網を構築され、実際に利用者を含めた移動避難訓練を実施されるなど防災に対する意識は高い事業所である。家庭的な環境の中で利用者・家族の思いや希望を把握し、生活歴を出来る限り知り、その人らしい生き甲斐のある生活ができるように支援することを管理者及び職員は目標としている。施設内は随所に職員手作りの利用者目線での工夫がなされ毎月発行される「なでしこだより」も家族に利用者の日常生活を分かり易く伝えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域交流を事業所の基本理念のひとつに挙げ、職員も同伴して実際に地域の行事に参加をさせて頂いている。	事業所理念の下、職員ユニット会議で定期的に各ユニット別の標語を定め、事業所理念を実践共有している。	ユニット目標など出来ているが、より職員が事業所理念、ユニット目標を意識実践するために、職員が個々に具体的な年間目標を定めて、より事業所理念が日々のケアに活かされる取り組みを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	施設開所時より町内会に加入し、敬老会や祭りなどの町内の行事に参加させて頂き、今では先方からお誘いのお言葉を受けられるようになった。	町内会に加入し町内の清掃等には職員が参加し利用者はされていないが、その他の町内行事（敬老会、祭り等）には利用者も積極的に参加している。又、地域交流の中で現在では、町内会の色々な行事の手伝を受け持つなど地域の一員として交流が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々に向けて敷地入口に掲示板を設置して、施設だよりや運営推進会議の議事録などを掲げたり、施設内の行事に近隣住民の皆さんを招待して、ほんの一部ではあるが運営の様子を観て頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月ごとに家族会を兼ねた運営推進会議を開催し、施設内の行事や発生してしまったヒヤリハットや事故の報告、また内容がマンネリ化して参加して頂いた方々に飽きがないよう、社会福祉に関する情報や話題を議題に加えている。	運営推進会議は、家族、民生委員、市町及び地域包括支援センター職員が参加され実施されてる。ヒヤリハット、事故報告、行事報告など、分かり易い書式で報告されている。	現在2ヶ月ごとに第4週（水）10：00～11：00に運営推進会議を家族会も兼ねて開催しているが、家族の出席も少なく出席者も固定している。その他のメンバーもスケジュールが合わず欠席が多いため、再度開催日・開催時間を検討調整され、多職域の方々との意見交換ができる会議になるような取り組みを望みます。
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	上記の運営推進会議に、市町担当者さんの参加の依頼をしたり、開催のつど議事録を持参している。その他、施設運営に関して質問や疑問がある時は、随時市庁舎を訪問して助言や指示を仰いでいる。	市町の担当者の方とは、各種報告等により連絡を密に取れている。今年4月より市町の担当者が替わったが、引き続き協力関係が出来るよう取組まれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>目に見える身体拘束は勿論、職員が自覚なく行っている身体拘束とみなされる行動があれば、業務の中で指摘をして意識づけの喚起をしている。玄関の施錠については建物の構造上目が行き届かない死角があるため、やむを得ず行っているが、目が届きやすい時間帯は錠を解いて開放している。</p>	<p>定期的な全職員を対象に日々のケアの中で身体拘束及び心理的要因に該当する項目を掲げたアンケート調査を実施され、意識づけの喚起をされている。玄関は構造上自動ドアでオートロックが掛る仕組みになっている。管理者は施錠を含めて、身体拘束に該当することを認識されており、見守り可能な時間帯は自動ドア解除して開放している。</p>	<p>玄関自動ドアオートロックは、構造上の問題ではありますが、利用者の自由な行動を損なうことなく、且つ安全が担保できる対策を検討されることを望みます。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法の条文に沿った教育の機会は持っていないが、上記の身体拘束と同様、職員が日頃のケアのなかで意識なく行っている事で虐待につながる恐れがある行為があれば、その都度指摘をしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人が就任している入居者さんを通じて、そのかわりの実践を行っている。また、成年後見人等が就任している方の入居申し込みも、他の方と同様に分け隔てなく受け付けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の締結時は必要最低限の重要事項を確実に説明し、その他の事についても随時問い合わせという形で受け付けている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>質問や苦情等があれば、口頭や電話、玄関に設置している苦情箱等、あらゆる方法で受け付ける体制を構築している。</p>	<p>面会時、来訪時に口頭での苦情や要望を聴く機会が多くその都度対応する様にされている。いつでも笑顔で気軽に立ち寄って頂ける家族的な信頼関係を作る中でなんでも相談できる関係づくりに努められている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月末に行うカンファレンスの場で、職員の意見や提案を討議している。また、ユニットごとに現場主任を配置し、それぞれのユニット運営を行っている。</p>	<p>毎月1回のスタッフ会議で意見、提案を聴く機会を設けている。職員の休憩時間を確保するための業務改善及びイベント開催の意見提案など即日検討され運営に反映されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>毎年、定期的に基本給のベースアップを行い職員の勤務意欲の向上を図っている。業務の中では省略や合理化ができる事は排除して、超過勤務が発生しないよう努め、やむを得ず発生した場合は法に定められた超過手当を支給している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>勤務時間帯のごとにそれぞれの業務分担がされてはいるが、職員間で経験値による業務遂行能力に差がある事は否めない。しかし、そこは職員間で不足分を補う体制ができています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>近隣の同業施設「にしぎこの家」さんに行事参加の呼びかけや、先方にお招きを受けるなどの交流を行っている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>ご入居時に際して、ご本人が抱えている思いや不安を可能な限り聞き受け、入居後の生活が精神的にも身体的にも困難なく送れるよう心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族が抱えていたご本人に関する諸問題を、入居後は施設側が可能な範囲で受け入れる事でご家族の身体的・精神的負担は軽減されるといった介入で関係づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	未だ前例はないが、ご本人やご家族の権利擁護につながるのであれば、他のサービス利用や他の事業所への紹介を行う体制である。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	可能な方には、洗濯物たたみや植木の水やり等の生活作業を積極的に行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	臨時的に発生した病院受診にはご家族の同伴を依頼したり、施設のみが行った場合でも同日中に電話連絡などで病状や医師の見解などの情報を伝えるなど、いわゆる「預けっぱなし」の状態に陥らないよう心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会に際してはその時間帯の制限は行っておらず、自由に来所して頂けるようにしている。またご来所の方々には笑顔で接するよう職員に指導して「行き易い施設」になるよう心掛けている。	利用者の3割の方が吉和町の方の為、日々の面会は多い。面会時間には制限がなく自由に気軽に行き来出来る雰囲気づくりがされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	単独で孤立しやすい入居者さんには職員が間に入って会話をするなど、周囲とのコミュニケーションが途絶えないよう気配をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	お亡くなりになり、ご退居となった入居者さんのご自宅を訪問して仏前で線香をあげたり、近くに寄った時には挨拶程度ではあるが訪問もしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中でご本人の希望や望みを受け取るよう心がけている。また、現在のご本人が望む事は何かを察する介護計画書の作成を事業所をあげて検討している。	職員は利用者との会話の中で、本人の希望や意向を聴き取り又、聴き取り困難な場合は、利用者の仕草などから把握し連絡帳を活用し、職員間で共有している。収集された情報を生活歴やケアプランに反映できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居時に、ご家族やご親族からご本人の出生から現在にいたるまでの生活歴を書き込む書類を依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人ごとに、時系列で日常の生活の様子を毎日記録をしている。その中にはご本人の言葉をそのまま書き写すなどの工夫をして、第三者もわかり易い記録にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居者さんごとに職員の担当を就けて定期的なアセスメントを行い、その内容に即した介護計画書を作成している。</p>	<p>利用者別に担当職員を決めて、日々の利用者、家族の情報を基にセンター方式を使用し、定期的アセスメントを行い、カンファレンスを実施、独自の書式を使った介護計画書作成している。介護計画書は6か月ごとに見直し、状況により随時変更している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>先述した個人ごとの介護記録をもとに、職員の勤務交代のつど、特記事項の申送りをしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>在宅での復帰を強く希望される方に対し、本人の希望にそって前ケアマネと連携をとってケア会議を開催したり、経済的な事情で退居の希望があったご家族にも、次施設への申込み手続きにも協力をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域で行われる敬老会などの行事に先方からお招きを受けたり、近隣のスーパーへ買い物に行き、友人や知り合いに会えば会話を楽しんで頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時に、主治医の変更をするか否かはお本人やご家族の希望を伺っている。診察や診断については、定期的なもの以外に必要があれば随時受けて頂き、その結果は同日中にご家族に伝えている。</p>	<p>入居時に、利用者家族にかかりつけ医の意向を確認している。現在のところかかりつけ医の希望者はなく、事業所の提携医が月に2回往診されている。提携医院は事業所より車で15分の近隣にあり、利用者の急変にも対応できる体制が取られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日常の中での気付きは介護記録に書きとどめ、看護職員をはじめ全職員に向けての情報として共有できる体制を構築している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院後もお見舞いの形で定期的に病院を訪ね、医師や看護職員の予見を随時尋ねている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>ご家族にご本人が常時医療行為を必要とするに至らない限りは施設生活が可能との説明を入居時に説明するが、その時が訪れた時には改めて主治医をとおしてご家族の意向を改めて何うようにしている（但し、未だかつて施設内での看取りは行っていない）</p>	<p>終末期の対応については、入居時及び早い段階から常時医療を必要としない場合は、看取りの対応が出来ることなど事業所に出来る事を利用者、家族に説明をしている。医療的な状態については、医師を含めて話し合いを持ち、関わっているチームで最後まで支援できるよう取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>救急時の対応についてはマニュアルを作成している。また夜間には全職員の日替わり担当制で「夜間当番」を取り決め、救急搬送に同行した夜勤職員の代務にあたるようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>近隣の「にしぎこの家」と連携して緊急時のホットラインを構築し、火災などで施設外に避難する事態となれば、お互いの建物に臨時避難をするよう提携をしている。また町内会にもお願いして避難誘導の手伝いをしてもらえるよう体制を整えている。</p>	<p>火災訓練は、消防署指導で1回（夜間想定）1回は自主訓練を行い、あわせて年2回実施している。火災訓練には、地域の住人の方も10数名参加され、地域住民の協力体制が出来ている。又、近隣の他事業所と緊急時連絡網を構築されており、お互いの施設への避難経路実施訓練もされている。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	次第に乱れていき易い入居者さんへの言葉使いは、親近感から始まっていくものと解してはいるが、管理者が定期的に指摘をしてその是正や意識づけを促している。	地域の方言を混えた日常の会話で声掛けをするようにしているが、職員の行き過ぎた発言等を、管理者及び現場主任が指摘注意を行い、絶えず人格及び尊厳を損なわない声掛けを意識することを指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者さんからの問いかけには必ず耳を傾けるよう心掛け、本人の望みを聴き取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に入居者さんを中心に据えてユニット運営をするよう指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類は臭いや汚れがないようこまめに洗濯をしている。また選択が可能な方には2着の服を目前に並べ、どちらを着たいか本人に訪ねている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個人ごとに差がある咀嚼の能力にあわせて、普通食・キザミ食・ミキサー食の3種類を用意している。	昼食の際は、施設内に音楽を流し、和やかに食事が出来るよう工夫している。食事はメニューは決めず、利用者からの日々の要望をもとに、職員が調理して提供している。又、利用者が隣の利用者を気遣い、時々食事の介助をして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分の摂取量の把握は目盛り付きの湯呑を使用し、毎食ごとにその摂取量を正確に見極めて記録をしている。魚の小骨を嫌う方には特別に処理を行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアは徹底して行っている。介助が必要な方は職員が必要な促しをしながら行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>パットやオムツ内での排泄は極力ないよう、定期的にトイレへの促しを行っている。入居時にその習慣がなかった方も、毎朝決まった時間に便座への誘導を行い、排便の習慣づけが成功した方もいっしょにやる。</p>	<p>利用者の排泄パターンを把握し、利用者ごとに定期的にトイレ誘導を行っている。他施設でオムツ排便しかできない方でも、まずトイレに定期的に誘導することで、今まで数名の方がトイレでの排便の習慣を戻した実績で自立に向けた支援を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>個別に乳製品を提供したり、主治医と相談のうえ整腸剤や下剤類を使用している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴時間は、職員の勤務時間の関係で午後に限定しざるを得ないのが現状ではあるが、冬場は寒さを感じないよう暖房設備を十分に活用したり、市販の入浴用具をはじめ、座位が取りやすいよう手づくりのタオルマットなどを自作している。</p>	<p>入浴時間は、午後からで週に2回位となっている。ゆっくり安全に入浴をして頂けるよう、入浴座椅子に座位が取り易いように職員手作りの滑り防止のタオルマットを活用している。季節に応じて入浴剤を入れるなど、工夫をされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>主に昼食後に眠気を催す方には、夜間の睡眠の影響がない範囲で昼寝をしてもらっている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個人ごとに医療に特化した内容のみをまとめたファイルを用意して、処方内容に変更があればその理由を書き込み、個人情報ファイルにも常に最新の処方箋を綴じて職員に周知徹底を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>入居時に、ご家族から伺った生活歴を取扱注意で個人情報ファイルの冒頭に記載し、それをもとに日常の会話は思い出話を中心に展開するよう心掛けている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>外出を希望されている方は勿論、自らの要求がない方も職員から声をかけ、できるだけ室内のみで生活を送らないよう心掛けている。</p>	<p>日常的な外出は季節により変わるが、気候の良い時期には事業所周りの散歩コースを散歩したり、ドライブに出た時は馴染みの場所の近くを通ったり、食材の買い物などに同行して頂くなど、日常的に外出している。年1回紅葉の時期には、バスを貸切って、利用者全員と希望の家族同伴で紅葉狩りのバス旅行を行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>希望がある方にはご家族と取決めて一定額の現金を所持してもらい、買い物時には自分で支払をして頂いている方もいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族の承認を得て、ご本人に希望があれば自ら自宅に電話を掛けて頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>室温や湿度の管理はもとより、掃除や整理整頓は毎日行っている。また入居者さんが使い易い大きさや高さのテーブルを自作して、できるだけ自立動作が可能になるような環境を創っている。</p>	<p>玄関を挟んで各ユニットがあり、廊下続きになっており、利用者がユニット間を自由に行き来できるようになっている。リビング内の食卓とは別に、利用者の座高に合わせた補助テーブル、エアコン排気口には直接風が当たらないようにボードが設置されており、各所に職員手作りの工夫が活かされ、居心地の良い空間づくりとなっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居室への出入りは自由にして頂き、リビングではソファやテーブル席などにも自由に行き来して頂いている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>馴染みの物を居室に持ち込んで頂いたり、パネル大に引き伸ばした若かりし頃や施設内で撮った写真を飾っている。また、尿とりパットやオムツのパッケージが露出しないよう別収納したり、装飾を施した箱にストックして景観が悪くならないよう注意している。</p>	<p>居室内は、食べ物、火気以外の持ち込みは可能とのことで、居室内は馴染みの家具や置物などが置かれている。家族との写真も、本人ご家族が持ち込まれたものを拡大パネルにしたり、身長の高い利用者用にハンガーフックの位置を下げる手作りのフックを設置されるなど、利用者目線での配慮がされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>居室の壁には、低い位置で衣類のハンガーが自分で掛けられるような工夫をしたり、洗面台には個人名を記したラックを自作して、可能な方は自分で出し入れをして頂いている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームなでしこ

作成日 平成27年2月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出支援が入居者全員に行き届いていない (前回からの継続)	全員の外出支援を行う	ドライブに加え、施設 近隣の散歩を行う	1年間
2	13	管理者以外、施設外研修に参加できていない (前回からの継続)	研修参加の機会を増やす	順次、各自の能力に見 合った研修の参加を促 す	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。